

青陵中学校の ESD 活動

〈活動の概要〉

- ・本校は、「豊かな知性をみがく」「協調と思いやりの精神を養う」「たくましい心身を鍛える」という教育目標のもとに、ESD を持続可能な社会づくりの根幹として捉え、ESD の実践を通して主体的に探究し、思いや学びを高め合える生徒の育成を目標とした。
- ・具体的には、応援団活動、夏みかん並木の保全、学校行事の推進を柱に①応援団に関わる活動②夏みかん並木に関わる教育③総合的な学習の時間における、【ひと】【もの】を取り上げた個人探究学習の取り組みなどを行った。

・活動の実際

① 応援団に関わる活動（有志生徒）

青陵中学校では「伝統を引き継ぐこと」「愛校心を高めること」「青陵中生としての誇りをもつこと」をねらいとし、応援団活動が行われている。市内総合体育大会では2年生が、市内新人体育大会では3年生が応援団を結成する。

青陵中学校の応援団は平成4年から始まり、今年で33年目となる。男女関係なく多くの生徒が有志で集まり、選手たちへエールを送る姿は圧巻だ。生徒の熱い「ALL FIGHT」の精神を、今後も青陵中の核として受け継がれることを願う。

今後も、各種大会に向けた選手激励会でエールを送ることが応援団の中心的な活動になっていく。見ている人に勇気を与える姿に期待したい。



市内新人大会激励会にて

② 夏みかん並木に関わる教育（委員会）

青陵中学校では、毎年1月に夏みかん収穫作業が行われる。青陵街道沿いに植えられた約50本の夏みかん並木は、昭和35年の5月に、「郷土への奉仕活動を！」をテーマに当時の生徒会役員の発案で、校区の青陵街道に産地でもある香り豊かな夏みかんを植えたのが始まりである。このことがテレビ番組で紹介され、詩人のサトウ・ハチローさんが「きいろが きいろが かがやきになる」という夏みかんの詩を書いてくださった。先輩方による地域の自然を愛し、緑を育てる活動を引き継ぐ夏みかん並木は、当時の緑化委員会を中心に育てられてきた。現在は生徒会が中心となりボランティアを募集し、環境委員会が協力をして収穫をしている。夏みかんは、地域の福祉施設や飯田東中学校に届けたりして、地域や他校との交流に役立っている。



青陵街道沿いで収穫作業

③ 総合的な学習の時間（生徒）

第1学年～第3学年「個別の研究課題についての探究学習」

●目標●

- ・個人で核となる研究課題（テーマ）を設定し、課題解決に向けて学習を積み重ねることで、社会を生き抜くことのできる知・徳・体の調和が取れた生徒の育成。
- ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを活かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度の育成。

●今年度の成果●

テーマの設定から始まり、探究の進め方、課題の深め方などの指導を重ねた。自ら情報を集め、考察を重ね、すすんで学習に取り組む姿が多く見られた。今年度より、三年間を通じたの単元として始め、今後も青陵中学校ではこの探究学習を続けていく。

（今年度のテーマ例）「もしもクジラを飼育するとしたら」「抹茶（Matcha）の魅力とは」



代表生徒
研究発表